

お経について（その4）

現代の主なお経の種類

お経にはさまざまな種類があり、「八万四千」と表現されるくらい豊富です。代表的なお経と、それを読む宗派について紹介します。

【般若心経（はんにゃしんぎょう）】

般若心経は特に広く知られているお経です。般若心経を読む主な宗派には、真言宗、天台宗、曹洞宗、浄土宗などがあります。

般若心経の正式名称は、摩訶般若波羅蜜多心経（まかはんにゃはらみだしんぎょう）、または、般若波羅蜜多心経（はんにゃはらみだしんぎょう）です。「般若」は智慧を、「波羅蜜多」は悟りを開くということを意味します。

【法華経（ほけきょう）】

般若心経と並び有名な經典の一つに、法華経があります。法華経を読む主な宗派は、天台宗、日蓮宗です。正式名称は、妙法蓮華経（みょうほうれんげきょう）といいます。

法華経は、人だけでなく、動植物や大地など全ての生きとし生けるものに「仏の心」とあるとされるのが特徴です。

【華嚴経（けごんきょう）】

華嚴宗の根本經典になっています。華嚴とは、仏になる修行を華にたとえ、徳を積んで仏になることを示した言葉です。太陽のように光を放っている仏様『毘盧遮那仏（びるしゃなぶつ）』について書かれた經典で、この光によって、迷っている人々を浄土である華嚴世界に導きます。

【阿弥陀経（あみだきょう）】

浄土宗、浄土真宗、時宗では阿弥陀経が主流です。

阿弥陀経には、素晴らしいあの世「極楽浄土」の様子や、往生する（死んで仏になる）ための方法が説かれています。



法中方による報恩講の内陣出勤

住職レター

コロナ禍で、世の中には変化が起きています。お寺を取り巻く状況にも、大きな変化が起きました。法事は少人数化で、本堂で勤まる所が多くなり、葬式は家族（親族）で見送る葬送スタイルが当たり前になってきました。

しかし、変わらない事もあります。それは、各ご門徒宅

へ参勤する報恩講。この報恩講は、多くの場合、善教寺から『報恩講参勤のお知らせ』と題して、ハガキに日時を明記して郵送します。コロナ禍になってからは、「マスク着用して・・・」と、ハガキに明記するように変わったくらいでしょうか。

コロナ禍を理由に、「今年の報恩講参勤は取り止めて下さい」との、お電話があるかな？と心配したのですが、有り難いことに、取り止めされる方は全く有りませんでした。むしろ逆に、「コロナじゃけ、お参りして貰えんかと思いましたが安心してました。気を付けてお参り下さい」と、お優しい言葉を頂く事もあります。

各ご門徒宅への報恩講参りは、浄土真宗独特の風習です。他宗派では、お盆の檀家参りが一般的でしょうか。報恩講は真宗門徒にとって、一番大切な法要であります。

コロナ禍によって、変化していくべきところと、絶対に変えてはならないところ、ちゃんと見極めていかなくてはと思っています。報恩講参りの習慣、次世代に受け継いでいきたいと思います。



ライトアップされた親鸞聖人像
（善教寺境内地）